

「ささえる力 Power」は、情熱と誇りをもって働く「人」にスポットをあて水資源機構の仕事を紹介するコーナーです。

# シニアの力

## ～ 経験を次世代へ ～



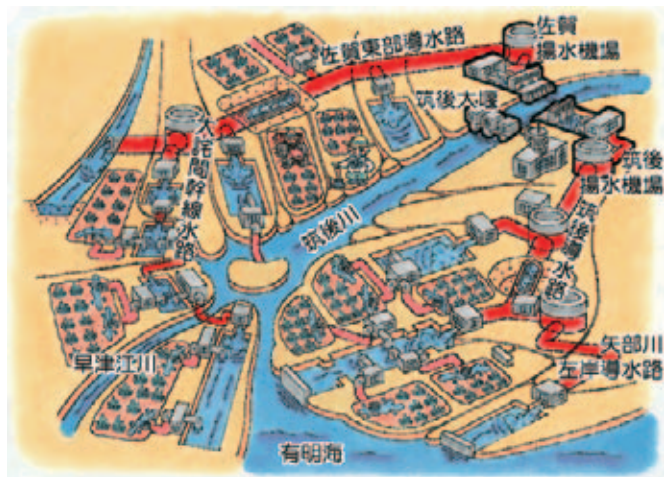
### Profile

筑後川局 筑後川下流用水管理室

**谷山 廣行** *Hiroyuki Taniyama*

昭和42年4月水資源開発公団入社。一貫して水路事業に携わり、水路の設計や管理を担当。平成21年3月定年退職後、継続雇用従事者（シニア・スタッフ）として4度目の筑後川下流総合管理所（現 筑後川局筑後川下流用水管理室）勤務となり、現在に至る。

水資源機構には、定年退職後、その職員の経験と能力を活用する「継続雇用制度」がある。今回紹介する谷山もこの制度の下で働く一人だ。継続雇用従事者、通称「シニア・スタッフ」として5年目を迎えた谷山の仕事風景取材した。



筑後川下流用水事業は、筑後平野（福岡県）と佐賀平野の約34,800ヘクタールの田んぼや畑に、海水が混じることなく、筑後川の水を供給している。

### 退職後、シニア・スタッフに

筑後川下流用水事業に建設当初から携わる谷山は、今年で当事業に関わって実に19年目。筑後川下流用水事業の生き字引だ。

そんな谷山がシニア・スタッフを志望したのは、「60歳は気力体力ともにまだまだ充実しているし、これまで培った経験を生かして、水資源機構の業務のお手伝いを出れば良いなと思った」から。

管理職経験が豊富な谷山にとって、決定権限がないシニア・スタッフの仕事は、「肩の荷が下りる反面、物足りない部分もある」というが、技術の伝承のための幅広い仕事を担当している。

### 自らの経験を職員に還元

少人数の事務所にあつて、筑後川下流用水に精通している谷山の存在は大きい。週1回行う用水路の巡視では、パイプラインからの水漏れがないか、近隣で別の工事がされていないかなどを確認するが、パイプラインは一部を除いて地下に埋設されているため、建設当時に知らない職員が埋設場所や状況をすぐに判断するのは難しい。そこで、谷山の出番となるわけで、職員に同行して巡視を行っている。その際、施設の目的や地域の歴



史など、職員に知っておいてもらいたいことは、積極的に説明するよう心掛けています。

谷山は言う。「自分があまり出過ぎないように日頃から注意していますが、職員に伝えるべきことは伝えますし、職員から何か求められたらアドバイスを返すようにしています。こちらから言い過ぎても職員も煩わしいだろうし、聞きに来やすいように心の窓は日頃から開放しているつもりです」

## 地域との連携

「筑後川下流用水地区は、福岡県と佐賀県にまたがり、特定土地改良区が10区あり、公平な水配分のため関係者間の取水調整が必要になります。とくに水不足のときの調整は重要で、協議を少しでも円滑に進めるために、各地区の水稲の品種や作付け面積、田植え時期などの聞き取り調査は、地域との連携を図る重要な業務となっています」

さらに、筑後川下流用水管理室では、有明海の海苔養殖の時期は、クリーク(水を田んぼに送るとともに、水を貯めておく役割を持つ堀のこと)のゴミや水草が有明海に流出しないよう、自治体や改良区などの関係機関と合同でゴミの回収を行っている。

「共に筑後川の恵みを受ける農業者と漁業者の信頼関係を深めるために、農業関係者が合同でゴミ回収を行う意味は大きいですね」と谷山は話す。

もう一つの取組として、JAと合同で、地域の小学校に田植えの方法を講義と実習で教える「出前講座」を実施している。

「私は農業用水の仕組みや農業の歴史を紹介していますが、機構職員というよりは、地域の一員として参加しています。そういう意識でやると、小学生との距離が近くなるのを実感できます」



クリークのゴミ回収



田んぼの出前講座

## シニア・スタッフのやりがい

谷山は、筑後川下流用水施設の見学者の案内もしており、若手職員とペアで対応することが多い。

「一番印象に残っているのは、ベトナムの学生など20名位が視察に来たときで、英語版の説明パネルを作成し、通訳なしの英語で説明しました。理解してもらえたか不安でしたが、付き添いの先生から『良くわかりました』と言われたときは、すごく嬉しかったですね」と笑顔を見せた。

他にも、用水路のゲート巻き上げ機の塗装や草刈り、樹木管理などの作業を行っている。

「ゲート巻き上げ機は、完成から10数年が経過しており、さびが目立ってきています。塗装し直すことで巻き上げ機の品質保持につながるし、きれいになった巻き上げ機を見ると達成感が得られますね」

筑後川下流用水事業に精通する谷山。これからはきれいで必要な量の水を届けるために、下流用水事業を豊富な経験量で支えていく。



ゲート巻き上げ機の塗装

スポーツ好きな谷山は、月に一度は全国のマラソン大会に出かけ、自転車のロードレースにも出場しており、年齢を感じさせない若さ。加えて、障害者支援などのボランティア活動もしており、「毎月2回ある例会後のお酒を飲みながらの懇親会が楽しみ」とのこと。

